

アジュダнте



リハビリは「薄紙を重ねるような」もの

今回ご紹介したいのは、約2年半、リハビリを続けている利用者様の事例です。A氏は開始当初、手すりを使っても立つことができず、後ろに倒れやすいため、立った姿勢を保つことが困難でした。地道な筋力トレーニングや関節可動域を広げる運動、立ち上がりや立位を保つ練習を重ね、少しずつ、少しずつ改善しては、転倒や体調不良により少し後退する、を繰り返す日々。A氏は「歩けるようになりたいから頑張る」と何度も何度も口にし、回復への希望を諦めることはありませんでした。その希望に応えられるよう、様々な工夫を凝らしてリハビリを続けた結果、自宅の中では自分で椅子から立ち上がることや、見守りのもと歩行器で歩行することができるようになりました。A氏は現在も「家の中は独りで歩きたい」という新たな目標に向けて努力を続けています。

日々、利用者様に接する中で感じていることは、タイトルの通り「リハビリとは薄紙を重ねるようなもの」ということです。しかも重ねた薄紙はとても剥がれやすく、ちょっとしたことで積み重ねたものが失われてしまいます。A氏のように希望を持ち続け、努力を重ね、改善していくことばかりではありません。むしろ、希望を持ちながらも現状を保つのが精一杯であったり、徐々に衰えてしまったり、ということが多々あります。しかし、利用者様を支える立場である看護師やリハビリテーションスタッフは、決して諦めずに向き合っていかなければならない、と強く思っています。アジュダнтеの想いである、「医療と介護の『縁の下』の力持ち」で有り続ける」を胸に秘めながら、私達も「薄紙を重ねるような」努力を続けていきたいと思えます。



新入社員紹介

金子真実（かねこまゆみ） 事務

酒田で夫と二人の子供と毎日にぎやかに暮らしています。たくさんの「笑顔」と「ありがとう」に出会えるよう、日々を丁寧に積み重ね学んでいきたいと思えます。よろしくお願いいたします。



看護の現場から ～看取り編～



世界中で流行している新型コロナウイルス性肺炎。県内でも感染者が出ている状況です。この状況の中で、総合病院に入院中の患者様への面会が制限されていることからご自宅でのお見送りを希望されるご家族が増えました。

先日、90代のS様をご家族とともにご自宅でお見送りしました。訪問開始時は看取りの状態ではなく、状態観察や療養上の指導などを主とした援助でした。しかし、徐々に水分、食事摂取量が減少し通院困難となり、住診医へ紹介となりました。当初、最後は病院でいいというのがご家族の希望でしたが、主治医より最後まで医師、訪問看護が支えていく旨の説明があり、入院中の面会が制限される不安もあり、ご自宅で看取る

ことを決心されました。吐気、下肢重苦感など訴えがあり、主治医と連携し対応しました。亡くなる2日ほど前に娘さん夫婦にオムツ交換をしてもらい「幸せだー」とおっしゃったのが最後の言葉となりました。ご家族に見守られ、とてもおだやかに亡くられました。病院、在宅どちらでもそれぞれメリット・デメリットがありますが、今回の事例は私たち看護スタッフにとっても心温まる経験となりました。

休業のお知らせ〈4月・5月〉

4 / 29、**5 / 1 ~ 5** (ゴールデンウィーク期間) **5 / 25** 午後 (天神祭りの為)

ご不便をおかけいたしますがよろしくお願いいたします。

鶴岡本社・酒田サテライトともにリハビリの新規依頼受付を再開しています！ ご相談お待ちしております

訪問看護リハビリステーションアジュダнте

鶴岡本社

電話 0235-23-8718

FAX 0235-64-0204

ホームページ <https://ayudante-reha.com/>

酒田サテライト

電話 0234-25-1177

FAX 0234-25-1188

E-mail ayudante-nurse@lilac.plala.or.jp